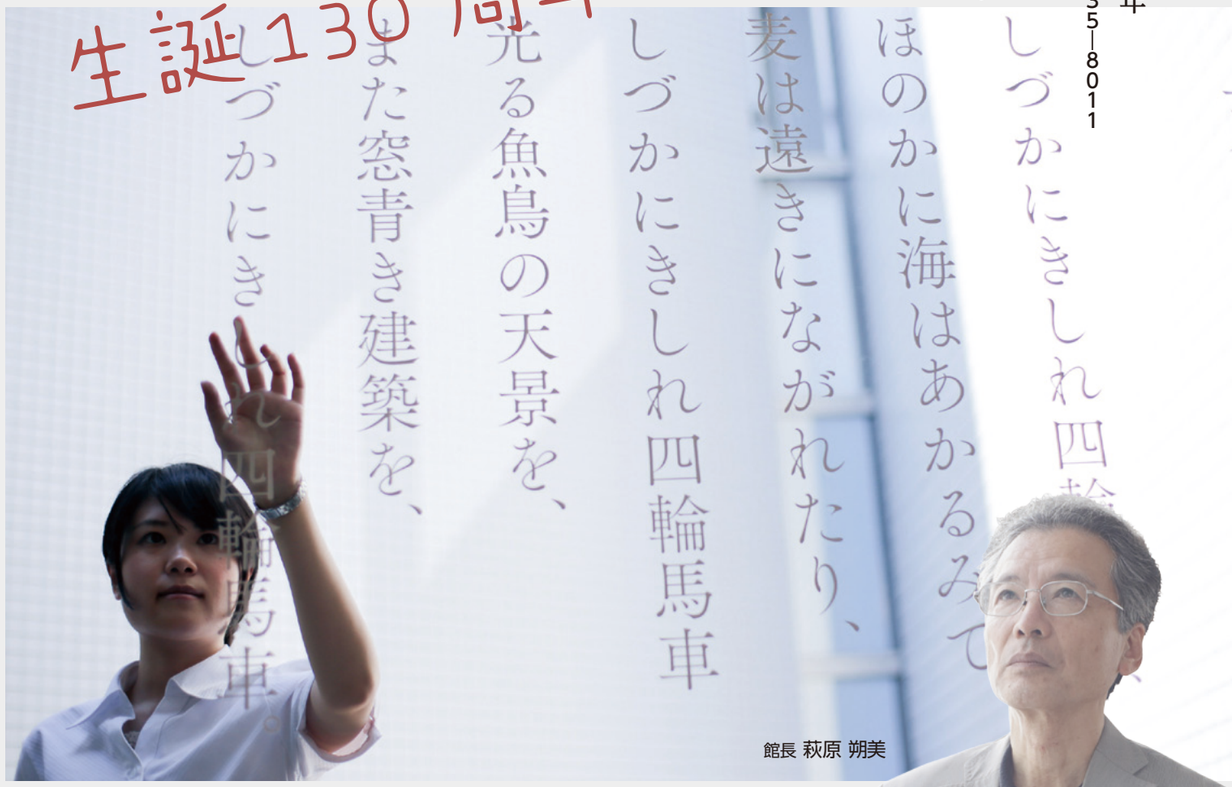
特集 01

朔太郎生誕130周年

問 前橋文学館 ☎027-235-8011

前橋文学館が何やら慌しい。
朔太郎の孫が館長に就任しています。

今年は萩原朔太郎の生誕130周年です。



館長 萩原 朔美

生まれ変わる前橋文学館 人生を深める文学との出逢い

郷 土の誇り、日本近代詩の父・萩原朔太郎。今年は生誕130周年。その記念すべき年に、エッセイストで、孫の萩原朔美が前橋文学館の館長に就任しました。

「初めて前橋を訪れたのは、敷島公園にある朔太郎詩碑の除幕式です。当時は小学生。とても緊張したのを覚えています。その小学生が今年で70歳になり、しかも、前橋文学館の館長になるのですから、人生何が起こるか分かりません」

文学館は文字との出逢いの場所と語る。心を揺り動かされる言葉といかに多く出逢ってもらうのか。

「前橋文学館で出逢った言葉や出来事によって、人生がより深い味わいあるものに変貌する。そんな文学館にしていきたいと、今強く思っています」。新たなスタートを切る同館で、10月から特別企画展を開催。新館長の個性も生かされます。

今なお新しい朔太郎の詩集

月に吠える

大正６年刊行の朔太郎第１詩集にして代表作。北原白秋と朔太郎自身が序文を、後書きを室生犀星が執筆。詩56編と田中恭吉、恩地孝四郎の版画15点を掲載。近代人の精神的孤独や不安を鋭い感受性をもって表現。音楽的な口語自由詩の美しさとあわせて、新たな詩的戦慄を生み出した。

猫町

昭和10年に発表した朔太郎の数少ない小説作品。物思いにふけりながら散歩する詩人が踏み込んだ、猫町の幻影が描かれる。「猫、猫、猫、猫、猫、猫、猫。どこを見ても猫ばかりだ。」。詩人の視線で描かれる物語が不思議な旅の世界に誘う。

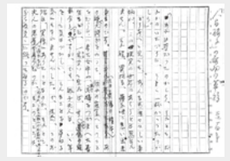
装丁デザインも魅力的ですね。

学芸員
小林 教人

前橋文学館特別企画展
パノラマ・ジオラマ・グロテスク
江戸川乱歩と萩原朔太郎

日本の推理小説の開拓者・江戸川乱歩。日本近代詩の変革者で口語自由詩の確立者・萩原朔太郎。異なるジャンルで大きな足跡を残した2人は、生前親交を深め合っていました。朔太郎は乱歩の小説を、乱歩は朔太郎の散文詩や詩篇、アフォリズム作品を高く評価。2人は、趣味においても共通するところがたくさんありました。

本展では原稿や書簡、受贈本など、親交が分かる貴重資料を紹介します。



期日＝10月1日㈯～12月18日㈰（水曜を除く）
費用＝300円（高校生以下と10月1日㈯・8日㈯・9日㈰・28日㈮・11月5日㈯・12月18日㈰は無料）
その他＝10月15日㈯・11月12日㈯・12月3日㈯、午後2時から、学芸員による展示解説を行います。

■孤独な窃視者の夢想～乱歩と朔太郎

美学者・谷川渥さんが、江戸川乱歩と萩原朔太郎について講演します。
日時＝11月5日㈯午後2時
申し込み＝10月8日㈯午前9時から同館へ

学芸員 津島 千絵

乱歩の遺品も必見

乱歩邸土蔵に朔太郎が訪れた場面を、2人の孫が再現した写真は今回の撮り下ろしです。乱歩の帽子やメガネ、朔太郎と共通の趣味だった手品の道具など、貴重な遺品も展示します。